2024 年度 評価結果報告書



調布市立かみいしわら第1・第2学童クラブ (学童クラブ)

### 株式会社日本生活介護

## 評価推進機構への報告

1.	福祉サービス第三者評価結果報告書	
2.	事業プロフィル	
3.	利用者調査	···· p1~3
4.	組織マネジメント	p5∼13
5.	サービス分析	· · · · · p 15~24
6.	事業者が特に力を入れている取り組み	· · · · · p 25
7.	全体の評価講評	· · · · · p 26

# 評価推進機構への報告



1   理念・方針 (関連 カテゴリー1 リー	-ダーシップと意思決定)
-------------------------	--------------

事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)のうち、

特に重要なもの(上位5つ程度)を簡潔に記述

(関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定)

- 1)基本的な生活習慣を身につけ、自分で考え行動する
- 2)集団生活の中で社会性を身につける
- 3)育成を通して様々なことを感じ、考え、それを自己表現する
- 4)安全・安心な学童クラブ運営
- 5)施設間の連携
- 6)中期経営計画の取り組み推進

### 2 期待する職員像 (関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上)

- (1)職員に求めている人材像や役割
- ・利用者一人ひとりを大切に、安全・安心・快適に過ごすことができるよう、常に改善の意識を持ち、利用者から選ばれる施設運営を目指します。「利用者から選ばれる」東京かたばみ会
- ・働く人一人ひとりが心に余裕をもち、働きやすい職場となるよう業務改善を進め、仲間を大切にする法人運営を目指します。「みんなが助け合う」東京かたばみ会
- ・働く人一人ひとりの力を伸ばし、挑戦意欲を発揮できる職場となるよう、人材の育成・定着を図ります。「みんなが助け合う」東京かたばみ会
- ・やがて土から芽を出し、きれいな花が咲くように、この5年間でしっかりと経営基盤の基礎を固め、持続可能な法人経営を 目指します。「しっかり根を張る」東京かたばみ会

#### (2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)

- ・利用者の目線で考え実践できる職員になる。
- ・確かな時代認識の上にたって新たな課題に道筋をつけ、責任を持って実行できる職員になる。
- ・既存の習慣にとらわれることなく常に幅広い視点から柔軟に改革できる職員になる。
- ・福祉の心を念頭にコスト意識をもって行動できる職員になる。

<b>容</b> 録 原	一番全昌を	·対象とした。	

調查対象

学童クラブからアンケート用紙を配布し、記入後は返信用封 筒に入れ、直接評価機関へ返送していただくか、学童クラブ に設置した回収BOXに投函し、学童クラブからまとめて評価機関へ返送していただくこととした。

調査方法

利用者総数

110

共通評価項目による調査対象者数 共通評価項目による調査の有効回答者数 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
110	0	110
98	0	98
89.1	0.0	89.1

### 利用者調査全体のコメント

調査対象者110名のうち、98名から回答を得ることができた。

調宜対象有110名の75、96石から固合を持ることができた。 満足度の高い項目として、「職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「おやつの時間が楽しいひとときになっているか」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」などがあげられる。 高か」「学童プラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」などがあげられる。

回答」と回答している。また、「たくさん外で遊びたいです」「とても楽しいです」「お菓子がたくさんあります」「折り紙をた くさん使いたいです」「ドッヂビーの時間を増やしてほしいです」などのコメントがあがっている。

### 利田者調杏結果

JF	H 石調宜結果				
	共通評価項目		実	数	
	コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
	1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	54	26	5	13
	54名が「はい」、26名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。 また、「学童が楽しみです」「ミサンガを作ることが楽しいです」「友だちがたくさんいます」な	どのコメン	-があがっ <sup>-</sup>	ている。	
	2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	52	20	8	18
	52名が「はい」、20名が「どちらともいえない」、8名が「いいえ」と回答している。また、「話を聞いてくれて、うれしいです」「秘密のことを相談しています」「話せてホッとするいる。	ことがあり	ます」などの	<b>)コメントが</b>	あがって
	3. おやつの時間が楽しいひとときになっているか	58	16	9	15
	58名が「はい」、16名が「どちらともいえない」、9名が「いいえ」と回答している。 また、「みんなで楽しい話をしています」「おやつがおいしいです」「賑やかです」などのコメン	 小があがっ	っている。		

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	33	25	10	30
33名が「はい」、25名が「どちらともいえない」、10名が「いいえ」、30名が「無回答」と回答しまた、「意見を紙に書いてくれます」「他の生徒が考えを聞いてくれません」「たまに聞いてく		どのコメント	トがあがって	ている。
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	62	14	5	17
62名が「はい」、14名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。また、「ルールの理由をわかりやすく説明してくれます」「わかりやすいです」「約束ごとはあ	りません」	などのコメン	ントがあがっ	っている。
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	24	32	29	13
24名が「はい」、32名が「どちらともいえない」、29名が「いいえ」と回答している。 また、「片付いています」「本棚が汚いときがあります」「おもちゃが片付いていません」など	のコメントな	があがってし	いる。	
7. 職員の接遇・態度は適切か	51	19	10	18
51名が「はい」、19名が「どちらともいえない」、10名が「いいえ」と回答している。 また、「好きな名前で呼んでくれます」「服装はもう少しきちんとした方がいいと思います」な	どのコメン	トがあがっ	ている。	
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	61	15	4	18
61名が「はい」、15名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。 また、「助けてくれます」「対応してくれました」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	56	12	11	19
56名が「はい」、12名が「どちらともいえない」、11名が「いいえ」と回答している。 また、「とても信頼できます」「相談したことがあります」「ケンカしたときに助けてくれました」	はどのコメ	ントがあが	っている。	
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	45	11	13	29
45名が「はい」、11名が「どちらともいえない」、13名が「いいえ」、29名が「無回答」と回答しまた、「優しくケンカを止めてくれました」「意見を堂々と言えます」「もう少し大切にしてほしい		コメントがあ	がっている	) 0

11. 子どものプライバシーは守られているか	37	11	11	39
37名が「はい」、11名が「どちらともいえない」、11名が「いいえ」、39名が「無回答」と回答しまた、「守ってくれてうれしいです」「先生に内緒の話をしたことがあります」「秘密にしてくれ		ごのコメント	があがって	<b>こいる</b> 。
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	32	19	13	34
32名が「はい」、19名が「どちらともいえない」、13名が「いいえ」、34名が「無回答」と回答しまた、「よくなるようにしてくれています」などのコメントがあがっている。	ている。			
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	27	6	16	49
27名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、16名が「いいえ」、49名が「無回答」と回答してまた、「質問の意味がわかりません」とのコメントがあがっている。	いる。			

### Ⅰ 組織マネジメント項目(カテゴリー1~5、7)

No.	ARTHRO C. L. D. D. D.	共通評価項目	
		カテゴリー1	
1	リーダーシップと	意思決定	
		サブカテゴリー1 (1-1)	
	事業所が目指して	ていることの実現に向けて一丸となっている サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指し <sup>-</sup> ている	ていること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知し <b>評点(〇〇)</b>	
	=± /±		
	評価	標準項目 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理 し、事業所をリー		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
		いて、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて )内容を関係者に周知している <b>評点(〇〇〇</b> )	
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
		カテゴリー1の講評	<u> </u>
	法人の単年度事 もに、理念につい 基本方針を学ぶ	念や基本方針が職員全員に十分に周知と理解がされている 業計画では、児童部門の基本方針や育成目標、運営の方向性を詳細に示している。この計画は各施設に配っては事業所マニュアルにも掲載し、職員が常に意識できるよう工夫している。また、新任職員には採用時の機会を設け、さらに年に2回の全体会議を通じて、その理解を深め、意識を共有している。今回実施した職員はともに理念や方針、年度の目標について十分な理解がされていることが確認できた。	研修で理念や
	法人では、「安全 めている。これを 題の解決に向け	け、決定事項等の周知の流れを整理して、共通認識を進めている ・安心な学童クラブ運営」を重点事項として掲げ、リスクマネジメントへの取り組みと、子どもの権利擁護に向 実現するため、法人主導のもと定期的に施設長会議を開催し、計画の進捗状況を確認するとともに、各施設 た議論を行っている。また、各施設の職員会議で挙がった意見や提案は、施設長会議において検討され、現 共通の対策を講じることで、サービスの標準化や安全対策の向上につなげている。	が抱える課
	学童クラブ全体会 重点項目を共有 度の中頃には2回	まる機会を設け、円滑な事業運営に向けて取り組んでいる 会は、全正規職員を対象とし、各施設の職員が顔を合わせる場として開催されている。この会では、年度の業 するとともに、共通認識を深め、職員間のコミュニケーションを促進することで、協力関係の構築を目指してい 団目の全体会を実施し、遊びをテーマに据えた交流の場を設けている。この会では、職員同士がチームを組み を深めるとともに、子どもへの遊びの指導力やコミュニケーション能力の向上を図っている。	る。また、年

I			カテゴリー2	
2	事業所で	を取り巻く	〈環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
İ			サブカテゴリー1(2-1)	
	事業所ででいる	を取り巻く	〈環境について情報を把握・検討し、課題を抽出し サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
	評価項 事業所で ている		〈環境について情報を把握・検討し、課題を抽出し <b>評点(〇〇〇〇〇〇</b> )	
	<b>=</b> a	平価	<b>福港</b> 在口	
	āf	<u> F1Щ</u>	標準項目	
	⊚あり	○なし	把握している	○非該当
	<ul><li>●あり ○なし</li><li>●あり ○なし</li><li>●あり ○なし</li></ul>		2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
			3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
			4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
			5. 事業所の経営状況を把握・検討している	
	⊚あり	○なし		○非該当
	<b>●</b> あり	○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
			サブカテゴリ <b>ー</b> 2(2-2)	
	実践的	な計画策	定に取り組んでいる サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
		が目指し	ていること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現	
			別計画及び単年度計画を策定している <b>評点(〇〇〇)</b>	
		呼価	標準項目	
	部			<b>○</b> 非該当
	<b>評</b> <b>●</b> あり	<b>呼価</b>	標準項目  1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画	○非該当
	部	<b>呼価</b>	標準項目 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	_
	<ul><li>あり</li><li>あり</li><li>あり</li></ul>	<b>評価</b>	標準項目  1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している  2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
	<ul><li>動力</li><li>動力</li><li>動力</li><li>事力</li></ul>	下価	標準項目  1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している  2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当 ○非該当
	<ul><li>あり</li><li>あり</li><li>あり</li><li>評価項請</li></ul>	下価	標準項目  1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している  2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している  3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている  行に取り組んでいる  評点(OO)	○非該当 ○非該当
	<ul><li>●あり</li><li>●あり</li><li>●あり</li><li>評価項</li><li>評価</li></ul>	下価	標準項目  1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している  2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している  3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている  行に取り組んでいる	○非該当 ○非該当 ○非該当
	<ul><li>あり</li><li>あり</li><li>あり</li><li>評価な言</li><li>あり</li></ul>	下価	標準項目  1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している  2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している  3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている  行に取り組んでいる  評点(OO)  標準項目  1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職	<ul><li>○非該当</li><li>○非該当</li><li>○非該当</li></ul>
	<ul><li>あり</li><li>あり</li><li>あり</li><li>評価な言</li><li>あり</li></ul>	下価	標準項目  1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している  2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している  3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている  行に取り組んでいる  「に取り組んでいる  「標準項目  1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している  2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んで	○非該当 ○非該当 ○非該当
	<ul><li>・ ああり</li><li>・ ああり</li><li>・ 面集</li><li>・ ああり</li><li>・ を期ケ検方る。</li><li>・ おりします</li><li>・ おりします</li><li>・ おりします</li><li>・ おりします</li><li>・ おりします</li><li>・ おります</li><li>・ まります</li><li>・ まります<!--</td--><td>「価」 な は は まま は な な は を 要 まま は まま まま は まま まま まま まま まま ままま ままま ま</td><td>標準項目  1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している  2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している  3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている  行に取り組んでいる    「に取り組んでいる   「標準項目   「事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している  2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる</td><td>● 非該当  ● 非該当  ● 非該当  ● 非該当  ● 非該当  ● のおラブあり こ、この法人</td></li></ul>	「価」 な は は まま は な な は を 要 まま は まま まま は まま まま まま まま まま ままま ままま ま	標準項目  1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している  2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している  3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている  行に取り組んでいる    「に取り組んでいる   「標準項目   「事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している  2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	● 非該当  ● 非該当  ● 非該当  ● 非該当  ● 非該当  ● のおラブあり こ、この法人

法人の放課後児童部門が定めた中期経営計画では、「各施設における子どものケガの発生を最小限に抑え、安全安心な管理運営に努める」を重要なテーマとして掲げている。これを受け、単年度事業計画の学童クラブ全体の重点事項では「安全・安心な学童クラブ運営」「施設間の連携」「中期経営計画の取り組み推進」を定め、具体的な行動を示している。また、事業所の重点事項として「遊びや活動を通して、子どもが気持ちを言葉で表現できるよう支援する」こと、「子どもに関係する施設と連携し、安心して過ごせる地域づくり」をすることとしている。

### 法人の計画が職員に深く認知されており、各事業への理解が十分に進んでいる

今回実施した職員自己評価の結果から、法人の中期経営計画や事業所の単年度計画に対する職員の理解度が深いことが明らかになった。これは、学童クラブ全体会において、放課後児童部門の方針や事業所の重点事項を定期的に周知・確認していること、施設長の発信力の高いことが要因と考えられる。また、パート職員から職員会議に参加し、さらなる情報共有を図りたいとの意見が出ていること、会議録の共有方法を改善していきたい意向があることから、職員全員の会議を現在の年間3回の実施から、毎月実施の方向で検討を重ねている。

	カテゴリー3				
経営における社	会的責任				
サブカテゴリー1(3-1)					
達成に取り組ん		2/2			
評価項目1					
	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理 などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる <b>評点(〇〇)</b>				
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳をむ)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	含 ①非該当			
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定めに確認している。	□ 単			
利用者の権利擁	運護のために、組織的な取り組みを行っている サブカテゴリー毎の				
1770   121777	標準項目実施状況	4/4			
	は十つスログルD 1770	•			
評価項目1 利用者の意向(す		<u>`</u>			
	意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対	00)			
利用者の意向()	意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対 えている <b>評点((</b>				
利用者の意向() 応する体制を整	意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対 えている <b>評点((</b>				
利用者の意向(京応する体制を整 評価	意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対えている 標準項目 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝え	てい			
利用者の意向(京応する体制を整 評価	意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対 えている 標準項目 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝える	てい			
利用者の意向(j 応する体制を整. 評価	意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対えている 標準項目  1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝える  2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	でい			
利用者の意向(j 応する体制を整. 評価	意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対 えている 標準項目 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝える	でい ・ 非該当 ・ 非該当			
利用者の意向(i 応する体制を整理	意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対えている 標準項目  1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝える  2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある  的な防止対策と対応をしている   評点((	では、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
利用者の意向(i 応する体制を整理) ( 下価値 を	意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対えている 標準項目  1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝える  2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある  的な防止対策と対応をしている	.てい ()非該当 ()非該当 ()の)			
利用者の意向(i 応する体制を整理	意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対えている 標準項目  1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝える  2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある  かな防止対策と対応をしている 標準項目  1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常	- てい			

	サブカテゴリー3(3-3)	
地域の福祉に役	立つ取り組みを行っている サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、均	也域との関係づくりに向けて取り組んでいる <b>評点(〇〇)</b>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる 	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニー	ズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている <b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
	カテゴリー3の講評	•

### 日常的に子どもや保護者の意見や要望を聞き取り、苦情に至らない対応を心掛けている

経営層は、年2回の苦情解決第三者委員会議において、法人内の各事業に寄せられた苦情の内容、解決までの経緯、改善策を報告し、 職員全体に周知を行っている。これまで放課後児童部門における苦情の実績はないが、他部門での事例を通じて、解決までの経緯を理解 し、事前の防止策を講じることは、質の高いサービス提供において重要な取り組みと位置付けている。また、苦情の対象は子どもや保護者 に限らず、地域からの意見も想定し、副校長や市の担当課と情報共有や解決に向けた取り組みを確認している。

#### 定期的な権利擁護に向けた意識付けの取り組みが継続的に行われている

毎年12月の人権週間に合わせて、法人独自に作成した「子どもの人権擁護のためのセルフチェックシート」を各学童クラブ職員全員に実施し、その結果を統計として取りまとめている。このチェックシートは、日常業務や特定の場面での職員の行動を問う内容となっている。その結果は、各施設の会議や学童クラブ全体会において報告され、権利擁護意識の向上や啓発に活用されている。さらに、市の担当課からは、都や市で実施される権利擁護に関する研修の情報が提供されており、放課後児童部門からの指示や職員の希望に応じて、受講が進められている。

### 地域社会とのつながりを子どもと一緒に経験し、新たな連携や関わりを生み出している

法人は、市内に7つの学童クラブを運営している強みを活かし、各地域の特性を深く理解しながら連携体制の強化に努めている。市の健全 育成推進地区委員会や地区協議会などと連携し、地域の行事(お祭りや運動会等)への参加や協力を行っている。市民活動支援センター との関わりからボランティアの活用にも力を入れており、手話を子どもが興味をもって楽しみ発表する等、多様な活動を行っている。また、 特別支援学校のお迎え場所として児童館を利用していることから、児童館祭りなどの連携を通して交流を深めている。

		カテゴリー4			
リスクマ	マネジメント				
		サブカテゴリー1(4-1)			
		-に計画的に取り組んでいる サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5		
評価項 事業所		クマネジメントに取り組んでいる <b>評点(〇〇〇〇〇)</b>			
1	評価標準項目				
<b>⊚</b> あり	○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当		
<b>⊚</b> あり	○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当		
<b>●</b> あり	○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当		
<b>⊚</b> あり	○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当		
<b>●</b> あり	○なし	5.事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当		
		サブカテゴリー2(4-2)			
事業所	の情報管	理を適切に行い活用できるようにしている サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4		
	で情報管	理を適切に行い活用できるようにしている <b>評点(〇〇〇〇)</b>			
	評価	標準項目			
<b>⊚</b> あり	○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当		
<b>⊚</b> あり	○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当		
●あり	○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当		
<b>●</b> あり	○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び 開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当		

#### カテゴリー4の講評

### 市内の感染状況を十分に把握した上での、各施設の対策と注意喚起を行っている

事業計画において、「安全・安心な学童クラブ運営」を目標として掲げ、具体的な取り組みとして事故・ケガの防止、感染症予防対策、および避難訓練の実施を定めている。事故防止については、各学童クラブで発生したインシデントリポートを集約・分析し、活動場所の設定や見守り体制の見直しなど、改善策に反映させている。また、市内の感染状況を常に把握し、流行期には注意喚起を各施設に連絡し、事前に対策を行うことで感染症の予防に努めている。日常から、室内の子どもの動線確保に注力し、災害時の安全な避難等が行われる様配慮をしている。

#### 施設の立地に応じた災害時の計画と体制が整備されている

子どもの支援時間に応じた学校との災害時の連携体制を図るため、協定が結ばれている。年間で避難訓練を6回実施し、加えて業務アプリを活用したテストメール配信や災害伝言ダイヤルの使用訓練を毎月行っている。また、建物内の放課後児童教室との連携を強化し、さまざまな災害訓練を共同で実施している。さらに、事業継続計画(BCP)における職員の役割について、非常勤職員には特定の役割を設けず、法人のバックアップのもとで行動することが定められている。

### 電子データの安全管理について、今後は更に取り組んでいきたいとしている

市の指導のもと、個人情報の取り扱いや管理方法が徹底されており、定期的な実地検査を受けて運用状況の確認が行われている。法人の規定に基づき、電子データや記録媒体の管理も厳密に行われている。例えば、子どもの写真データはオフラインPCで取り扱い、配信用データに加工する手順が定められており、安全な管理体制が整備されている。また、アプリを通じた情報発信において、保護者から写真の購入について要望があり、二次転用等の対策を含めた実施の検討を図って行く意向である。

			カテゴリー5	
5	職員と	組織の能	力向上	
			サブカテゴリー1(5-1)	
	成•定和	音に取り組	ている経営・サービスを実現する人材の確保・育 <b>サブカテゴリー毎の</b> しんでいる <b>標準項目実施状況</b>	12/12
	評価項 事業所		ていることの実現に必要な人材構成にしている <b>評点(OO)</b>	
	Ī	评価	標準項目	
	<b>●</b> あり	○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
	<b>●</b> あり	○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り 組んでいる	○非該当
	評価項 事業所		人材像に基づき人材育成計画を策定している <b>評点(OO)</b>	
	Ē	评価	標準項目	
	⊚ಹ೮	○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
	⊚ಹ೮	○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
		の求める	人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <b>評点(〇〇〇〇)</b>	
	ā	评価	標準項目	
	⊚ಹり	○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
	⊚ಹり	○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
	⊚ಹರ	○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
	⊚ಹ೮	○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
	評価項 職員の		け、職員の意欲向上に取り組んでいる <b>評点(〇〇〇〇)</b>	
J	=	评価	標準項目	
	⊚ಹರಿ	○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
	⊚ಹರ	○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
	<b>●</b> あり	○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
	<ul><li>あり</li></ul>	○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

	サフカテコリー2(5-2)	
組織力の向上に耳	なり組んでいるサブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向取り組んでいる	りけ、組織としての学びとチームワークの促進に <b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目	
	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	
●あり ○なし		○非該当
	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	
⊚あり ○なし		○非該当

### 適切な職員配置における支援体制を確立し、各施設の特色を生かした活動をしている

市内の学童クラブ利用のニーズ増加を受け、法人では正規職員の採用を積極的に行っており、これは学童クラブや児童館、保育園などの 児童部門の拡充に向けて、次世代の事業の担い手を育成することを目的としている。人員配置は支援単位に応じて適切に行われ、その 活動内容に関しては施設長と職員が協力し、方針を定めている。この方針を踏まえた事業所の特色として、男性職員が少なかった経緯が あるが、配置の変更により男性職員が増えたことで、子どもたちの遊びが増え、元気な様子が見られるなど、良い変化が出ている。

#### 法人の方針や職員の意向を踏まえた研修受講を進めている

カテゴリー5の講評

法人では、正規職員の勤続年数に応じた段階的な研修受講を計画的に進めており、子どもの育成支援に必要な研修については、正規・ 非常勤を問わず、職員会議などで共に実施し、知識を深めている。これまでの所内研修では、事故防止や緊急時対応を重視し、積極的に 実施してきた経緯がある。また、現場からは、障害や要支援児童へのコミュニケーションや具体的な支援事例を通して学びを深めたいとの 意見もあがっており、今後の研修に生かす予定である。

### 職員間の交流を通して、組織力の強化やサービスの標準化を図っている

年2回行われる学童クラブ全体会では、1回目に事業の目標・方針の確認や研修、重点事項の確認を行い、職員間での認識を統一している。2回目は、各施設の職員間のコミュニケーションの活性化や、育成支援の技術を共有し、楽しみながら行える場として開催している。この取り組みを通して、学童クラブでの業務やサービスの標準化を図り、異動時にも迅速に組織形成が行える体制を整えている。また、非常勤職員への情報共有が文書のみであり、配慮が必要な子どもの1日の様子について、より詳細に行う仕組みを整備していきたいと考えている。

_	
7 事業所の重要理	カテゴリ―7 題に対する組織的な活動
事未別の里安林	返「~刈り ②和1種口"よら当
	サブカテゴリー1(7-1)
事業所の重要課	題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている
評価項目1 事業所の理念・基 降の改善につない	基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以 ずている(その1)
前年度の重要認	果題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)
【課題・目標】 法人の中期計画(	にある4つの柱の実現にむけた事業評価を適正に行うこと。
【取り組み】	
	トを活用しながら、四半期ごとの見直しの際に進捗管理を行った。
【取り組みの結果	] 評価により、進捗状況を明確にし、適正な事業評価と課題の抽出を行うことが出来た。
A·B·UU三段陷	汗!!!!により、進捗状況を明惟にし、適正な事未計!!!!と話題の抽口を打りことがロネだ。
	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
目標の設定と	○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
取り組み	○ 具体的な目標が設定されていなかった
	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った 
取り組みの検証	│ │ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) │
	設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
検証結果の反映	○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
	│ │ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

### 評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

学童クラブの委託を受けた法人は、市の基準を遵守しつつ、法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クラブの運営を目指している。その柱は、地域に根ざしたサービスの質の向上、人材の確保・育成・定着、業務の効率化・運営力ある学童クラブの運営を目指している。その柱は、地域に根ざしたサービスの質の向上、人材の確保・育成・定着、業務の効率化・運営の標準化、新拠点の業務委託を円滑に行うという4つの目標で構成されている。各項目については、外部コンサルタントの助言を受けて、具体策を設定し、学童クラブが設置されている各地域に応じた単年度計画を作成している。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と見直しを行い、必要に応じて修正を加えている。各目標に対しては、年次評価を3段階で定め、評価基準はA(計画以上に進捗が確認できた)、B(概ね計画通り)、C(進捗に遅れが見られ、改善が必要)となっており、次年度に向けた課題抽出を行っている。これらのプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理され、実行に移されている。

### 評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以 降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

#### 【課題・目標】

安全・安心な学童クラブを実現するための事故防止対策を徹底する。

#### 【取り組み】

各学童クラブのヒヤリハット・事故報告の内容を分析し、各種マニュアルの改訂とその内容の周知を行う。

#### 【取り組みの結果】

児童引き渡しの手順の整理がされたことによる適正な子どもの引き渡しが改善された事、受診につながる事故等の各施設の目標値を設定し、計7施設中6施設が目標を達成した。

	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
目標の設定と 取り組み	○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
	○ 具体的な目標が設定されていなかった
	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
取り組みの検証	○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
	○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
検証結果の反映	○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
	○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

### 評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

事業計画において、各施設の重点事項を明確にし、法人の目標である「安全・安心な学童クラブ」の実現に向けて取り組んでいる。特に、 受診につながる事故防止と、児童引き渡し時の間違いをなくすことを目標に掲げている。事故防止に関しては、事故やヒヤリハット報告の 内容を精査・分析し、その対策を全施設に周知した。また、適正な児童の引き渡しに関しては、使用アプリの使い方や手順を整理し、マ ニュアルの改訂と職員への周知を行った。この取り組みによって、事故報告や受診に繋がる事故発生件数は減少した。この取り組みは次 年度も継続し、発生要因やその対応をさらに精査し、より安全な環境の提供と職員の育成支援に反映させていくこととしている。

令和6年度

#### Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.		共通評価項目	
		サブカテゴリー1	
1	サービス情報の扱	<sup>提供</sup> サブカテゴリー毎の <b>標準項目実施状況</b>	4/4
	評価項目1 子どもや保護者等	に対してサービスの情報を提供している <b>評点(〇〇〇〇</b> )	
	評価	標準項目	
	◉あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○非該当
	◉あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当

#### サブカテゴリー1の講評

### 情報は、子どもや保護者の特性を考慮し、わかりやすく興味を引く内容に工夫されている

子どもや保護者に対して、ITCシステムや玄関掲示板を通じて学童クラブの情報を提供している。情報は子どもや保護者の特性を考慮し、わかりやすく興味を引く内容となるよう工夫されている。日常の中で子どもたちに情報を伝え、子どもの声を拾いあげて、行事に反映させるなど、情報提供の工夫が見られる。保護者とは保護者会や送迎時に情報を共有し、職員は朝礼簿を用いて職員全体で情報共有を行っている。利用者向けのおたよりは毎月発行されているが、保護者向けの内容が中心であり、子ども向けの情報提供が不足している点が課題としてあげられる。

#### 調布市への育成状況報告書の提出や毎月のおたよりを通じて、情報交換を行っている

提供するサービス情報を積極的に地域内の関係事業所や団体と共有している。調布市への育成状況報告書の提出や毎月のおたよりを通じて、行政機関との適切な情報交換を行っている。地域の児童館で開催される運営会議に参加し、近隣の他施設と定期的に交流を図り、情報共有している。第三小学校学童クラブや西部児童館、小学校との協力体制のもと、図書館から本を借り入れる取り組みを実施し、子どもたちに幅広い学びの機会や多様な学習材料を提供している。学童クラブの運営が地域社会により深く根ざし、サービスを提供できる環境が整えられている。

### 見学希望者については、事前に個別のスケジュール調整を行い、午前中等で対応している

子どもや保護者からの問い合わせや見学に対して、一人ひとりの状況に合わせて丁寧に対応している。問い合わせは、ITCシステムや電話、対面で対応しており、保護者や子どもの不安や疑問に対して具体的で分かりやすい説明を心がけている。見学希望者については、事前に個別のスケジュール調整を行い、午前中や夕方を中心に対応している。見学や相談に訪れる保護者には、兄弟関係や家庭環境など個々の事情を抱える方が多く、その状況に応じた的確なサポートを提供している。年間を通して、10月から11月にかけて集中する傾向にある。

		サブカテゴリー2	
2	サービスの開始・	終了時の対応 サ <b>ブカテゴリー毎の</b> <b>標準項目実施状況</b>	8/8
	評価項目1	-++ 11-7 1°+ 14 /D = # + 1 - = = 2 DD 1	
	サービスの開始に	こあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている <b>評点(〇〇〇)</b>	
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
		2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	
	●あり ○なし		○非該当
		3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	_
	●あり ○なし		○非該当
		なび終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <b>評点(〇〇〇〇〇)</b>	
	評価	標準項目  1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	
	◉あり ○なし	1.9 ころ開始時に、1000版別に必要は個別事情や要主と次の54に言葉に記録し、記録している	○非該当
		2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	
	●あり ○なし		○非該当
		3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	
	●あり ○なし		○非該当
	●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
	●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当

### サブカテゴリー2の講評

#### 入会前に実施される説明会において、基本的なルールや重要事項の説明を行っている

サービスの開始時に子どもや保護者に対して十分な説明を行い、理解を得るようにしている。入会前に実施される説明会において、基本的なルールや重要事項、年間目標、行事案内、利用料金などについて詳細に説明を行っている。説明会は毎年3月に実施され、その後、保護者会や帰りの会で再度周知する機会を設けているため、保護者と子どもがサービス内容についてしっかりと把握できるよう配慮されている。サービスの内容や利用者負担金に関しても、説明の際に保護者の理解を深めるため、具体的な情報提供を行い、疑問点には丁寧に回答している。

### サービス開始時に子どもの援助に必要な個別事情や要望を的確に把握している

サービス開始時に子どもの援助に必要な個別事情や要望を的確に把握する仕組みが整っている。入会前の面談後に障がい児審査会で検討を行い、家族や児童の状況書、在職証明書、審査会書類などを用いて情報を記録している。利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するため、新しい環境に馴染むことが難しい子どもには、上級生が積極的にサポートする体制を整えたり、保育園時代のつながりを活用して友人関係を構築する工夫が見られる。朝の打ち合わせを通じてスタッフ間で情報共有を行い、子どもの状況に応じたきめ細やかな対応を心がけている。

### 配慮が必要な児童について、事前に近隣の保育園から情報を得る取り組みが行われている

配慮が必要な児童について、事前に近隣の保育園から情報を得る取り組みが行われている。保護者との面談が必要かどうかを判断するための参考となり、より個別に対応できる基盤が整備されている。障害のある子どもや発達面で特別な配慮が求められる子どもに対しても、十分な配慮と環境整備が行われている。室内に「クールダウン用の段ボールハウス」や、畳の部屋を利用した「しょんぼりハウス」など、子どもたちが安心して過ごせる場所が提供されている。加配職員を配置することにより、子どもたちの安全を確保し、より快適に過ごせるよう努めている。

		サブカテゴリー3	
3	個別状況の記録	录と計画策定 サブカテゴリ <b>ー毎の 標準項目実施状況</b>	10/10
	評価項目1 子どもの視点に	立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している <b>評点(〇〇〇〇</b> )	
	評価	標準項目	
		1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	
	●あり ○なし		○非該当
	⊚あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
	●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当
	評価項目2 子どもに関する	記録を適切に作成する体制を確立している <b>評点(〇〇〇)</b>	
	評価	標準項目	T
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
	●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
	●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当
		に関する情報を職員間で共有化している <b>評点(〇〇〇)</b>	
	評価	標準項目	1
	●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
	⊚あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
	●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
-			

#### 年間目標に基づき事業計画書作成され、定期的に見直しが行われている

子どもの視点に立った目標設定を行い、それに基づいた支援が実施されている。年間目標に基づき事業計画書作成され、定期的に見直 しが行われている。個別の支援計画は作成されていないが、月ごとに目標設定を行い、全体の育成支援が順調に進行するよう調整がなされている。全家庭を対象に個人面談を年に2回実施している。これまでは希望者のみを対象としていたが、今後は年に1回程度全家庭を対 象に面談を実施する意向で、より多くの家庭と密な連携を図る方針である。子ども一人ひとりの支援を体系的かつ計画的に行い、サービ スを提供している。

### 目標設定は指示に留まらず、子どもたちの能動的な参加を引き出すものとなっている

育成支援の計画は、子どもの個々の実態や周囲の状況変化に柔軟に対応できる形で策定されている。月ごとに生活や遊びの目標を職員 間で十分に協議した上で設定し、その過程で子どもたちとのコミュニケーションを積極的に図っている。目標を子どもと一緒に確認するため の具体的な取り組みが行われている。ミニゲームを通じて、遊びながら目標の確認を行う工夫が凝らされており、子どもたちが自主的に考 え、行動する力を養うことができるよう促されている。目標設定は単なる指示に留まらず、子どもたちの能動的な参加を引き出すものとなっ ている。

#### 毎月の日誌を通じて子どもの状況を詳細に記録し、その振り返りを行っている

障害のある子どもや発達面で特別な配慮が必要な子どもに対して、個別の状況に応じた計画作成とその見直しが行われている。毎月の 日誌を通じて子どもの状況を詳細に記録し、その振り返りを行いながら次月の目標を設定している。支援が柔軟に調整され、個々の子ど もの発達状況や必要に応じた支援が継続的に提供されている。配慮が必要な子どもについては、保育園への聞き取りや保護者からの了 解を得た上で、市の審査会にかけるなど、適切な対応が取られている。年度初めの保護者会で説明が行われ、保護者に対して十分に理 解を得られるよう努めている。

		サブカテゴリー5	
5	プライバシーの係	ファップ・コップ   サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
	評価項目1 子どものプライバ	ジー保護を徹底している <b>評点(〇〇)</b>	
	評価	標準項目	•
	◉あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
		2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	
	●あり ○なし		○非該当
	評価項目2 サービスの実施(	こあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <b>評点(〇〇〇</b> )	
	評価	標準項目	
	◉あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
	●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当

#### サブカテゴリー5の講評

### 子どもの個人情報が記載された書類は鍵付きの書庫に厳重に保管されている

子どものプライバシー保護に対する配慮が行われている。子どもに関する情報を外部と共有する必要が生じた場合には、必ず保護者の同意を得ている。面談や相談時の情報共有や、ホームページへの掲載といった場面でも同様である。子どものブライバシーに関して、個人情報が記載された書類は鍵付きの書庫に厳重に保管されており、子どもの話を聞く際には玄関や周囲の目に触れる場所ではなく、事務室など適切な場所で行うよう努めている。死角を作らない環境整備や、外部で子どもの名前を不用意に出さないといった運営方針は、法人全体で徹底されている。

#### 職員一同は、子どもの話をよく聞き、まずは信じることを基本としている

子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重するための取り組みが行われている。職員一同は、子どもの話をよく聞き、まずは信じることを基本とし、日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している。指導の際には、良い点はみんなの前で褒め、改善が必要な点は個別に対応することで、子どもの尊厳を守る配慮がなされている。人権週間には子どもの人権擁護のためのセルフチェックを行い、職員全員が意識を高めている。子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮し、おやつの要望や金銭感覚の違いにも配慮し、裕福な家庭との衝突を避ける工夫がされている。

### 学校や近隣の学童クラブとの情報交換を行い、研修を通じて職員の意識を高めている

子ども間の暴力やいじめの予防および再発防止に組織的に取り組んでいる。学校や近隣の学童クラブとの情報交換を行い、研修を通じて職員の意識を高めている。アンケートを実施し、子どもたちの声を拾い上げることで、いじめの兆候を早期に発見し、対応する体制を整えている。親に相談されるまで気づかない場合もあったが、仲良く遊ぶ子どもたちの中に潜む問題を見逃さないよう努めている。朝礼簿や記録ノートを活用し、日々の状況を詳細に記録することで、職員間での情報共有を徹底している。子どもたちが安心して過ごせる環境を提供している。

		サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標	準化 サブカテゴリー <b>毎の</b> <b>標準項目実施状況</b>	5/5
	評価項目1 手引書等を整備し	ン、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <b>評点(〇〇〇)</b>	
	評価	標準項目	
	◉あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
	⊚あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
		をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <b>評点(〇〇)</b>	
	評価	標準項目	
	◉あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
	●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当

#### サブカテゴリー6の講評

### 新人職員でも内容に従って実施すればスムーズに業務を遂行できる体制が整備されている

法人独自のマニュアルが詳細に作成されている。業務マニュアルについては、各手順が明確に記載されており、新人職員でもその内容に 従って実施すればスムーズに業務を遂行できる体制が整備されている。手引書やマニュアルは、一冊のファイルに整理され、市役所から 提供される資料とともに一元的に管理されており、サービスの基本事項や手順が具体的に示されている。業務が適切に実施されている か、定期的に点検・見直しする体制が整っている。法人内での施設長会議などを通じて、毎年、年度末に点検が行われ、四半期ごとに行 動計画を策定している。

#### イベント終了後に振り返りを行い、次年度に向けて改善点や対応策を話し合っている

サービス提供においては、基本事項や手順が定められており、改変の時期や見直しの基準も明確に設けられている。イベント終了後にはその都度振り返りを行い、次年度に向けて改善点や対応策を話し合っている。振り返りの場は、施設長ミーティングを通じて行われ、行事が終わるたびに実施される。急な事態への対応としても、例えば地震などの緊急時にはその都度必要に応じて見直しが行われ、柔軟な対応が図られている。年度末には事業計画を基に総括的な見直しが行われ、翌年度に向けた改善計画が策定される。事業所は、サービス水準の向上に努めている。

### 施設長会議では各施設から出た意見が共有され、サービスの改善に活かされている

職員や子ども、保護者からの意見や提案を積極的に反映する仕組みを構築している。アンケートを実施し、その結果を基に反省や振り返りを行っている。利用時間やイベントに関する意見など、子どもの声も大切にしており、施設長会議では各施設から出た意見が共有され、サービスの改善に活かされている。苦情解決ポストや苦情解決委員会を通じて、利用者からのフィードバックを受ける体制も整っており、市のアンケートも重要な情報源となっている。職員間でも日常的に意見交換が行われ、朝礼や日々の打ち合わせの中で、職員が意見を出し合いている。

	サブカテゴリー4	
サービスの実施	項目 サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	29/29
評価項目1	0.00 ± 0.11 ± 1 ± 10 ± 10.11 ± 1 7	
子とも一人ひとり	の発達の状態に応じて援助している <b>評点(〇〇〇〇)</b>	
評価	標準項目	
	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	
●あり ○なし		○非該当
	  2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作	
●あり ○なし	り出せるよう援助している	○非該当
	  3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶり	0 / = -
@+n O+1	る。光達の過程で生じる子とも向上のドランル(けんか等)に対し、子ともの息見に耳を傾け、窓間の高ふり  を和らげること等ができるよう援助している	O
●あり ○なし		○非該当
	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成し、長できるよう援助している	
●あり ○なし	及じてのよう版列している	○非該当
		•
新たに入会す	る子どもの状況把握と情報共有を徹底し、学校等と連携して支援している	
	カーこ 000 K/2013 MEC IS 4K/2017 CMA 2000 1 1/2 が こと 1500 と 2000 1	りを行い、子
さもの状況を把抗	屋している。新2年生以上については、他の学童クラブから移ってくる子どもが多いため、その学童クラブに職	員が複数で
	き取りを行い、子ども一人ひとりの状況を把握して、内容を全職員で情報共有している。同じ学区内の小学校	
夏雨報文揆を行 爰を行っている。	い、他の小学校とは個別に連絡を取っている。必要に応じて調布市子ども家庭支援センターとも連携し、子と	もにらの文
	タウかじの甲左松ば科で、下いた黄手しかもしるこのほと第12マンフ	
	条室などの異年齢活動で、互いを尊重し協力し合う関係を築いている 	TIT
	室などで異年齢の活動を行い、上級生が下級生の世話をし、下級生は上級生を尊敬し感謝できるよう指導し やバランスを見て決められており、おやつの準備や分配、掃除等の活動を行っている。誕生会では、誕生日マ	
	気持ちを大切にするゲームを取り入れ、子どもたちが互いを理解し認め合えるよう支援している。帰りの会で	
	を見て、下級生がその姿に憧れ、自分も司会を務めたいと練習する様子が見られる。異年齢の子どもたちが	協力し合い、
関係を豊かに築		
環境整備で配	慮が必要な子どもと他の子どもたちの生活を支援し、互いの関わりを促進	
室内にクールダ	ウン場所を設置し、その他にも事務室や2階休憩室を利用して、子どもの気持ちを受け止めながら落ち着いて	話を聞く体制
	んかでは両方の気持ちを受け止め、互いに納得できるようサポートを行っており、ロげんかの場合でも「危な るようにしている。また、特に配慮が必要な子どもが加配職員とだけの交流にならないよう、遊びの中でさりに	
	環境を見直して健常児と変わりなく生活を送れるよう支援し、周囲の子どもたちには自然に関われるように	
している。		
評価項目2		
∃常の援助を通 うエ夫している	して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよ <b>評点(〇〇〇</b> )	
アルスしている 評点((		
評価	標準項目	,
	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境をエ	1

L			
L	評価	標準項目	
ſ		1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境をエ	
	●あり ○なし	夫している 	○非該当
Γ		2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	
	●あり ○なし		○非該当
Γ		3. 生活や遊びを通して日常生活に必要となる基本的生活習慣を習得できるよう、援助している	
	●あり ○なし		○非該当
т			

#### 評価項目2の講評

### 様々な発達に対応した玩具と日々の積み重ねで子どもの成長を促す取り組みをしている

学童クラブでは、様々な年齢に対応した玩具を充実させている。パズルは70ピースの易しいものから500ピースの難しいものまで、将棋も初心者用から本格的なものまで揃えている。カプラや折り紙、本をはじめ、多くの玩具が常備され、色別に整理された収納棚で管理されている。おもちゃの入れ替えは子どもに伝えてから行い、日々の積み重ねで上達するルービックキューブやけん玉などは年間を通じて取り組めるようにしている。工作は人気があり、日々空き箱や画用紙などを準備しているが、図書館の利用や購入による工作の本の充実も考えている。

### 多様な援助を通じて主体的な集団活動と豊かな生活を支援する学童クラブの取り組み

職員は常に子どもの近くにいて、何か困ったことがあれば大人に伝えるよう促し、必要に応じて対応している。班は最大8人で構成し、バランスや相性を考慮している。おやつや掃除は当番制で行い、集団生活での役割が自然に身につくようにしている。夏祭りや児童館まつりでは子どもスタッフを募り、子どもの意見を取り入れながら実施している。行事の準備や企画を日々の活動に取り入れ、子どもたちが主体的に参加できるよう工夫し、行事への深い関わりを促している。これにより、子どもたちの生活や遊び、集団活動が豊かに展開されるよう支援している。

### 生活と遊びの月間目標設定を通じて、基本生活習慣を育む取り組みを行っている

毎月、学童クラブでは生活と遊びの月間目標を設定し、それをおたよりや室内掲示を通じて子どもや保護者に伝えている。月初めと月終わりの帰りの会では、子どもたちと目標について確認し、反省や意見交換を行う時間を設けている。また、視覚的な情報提供により、子どもたちが入ってはいけない場所にテープを張ることや、外遊びの際の持ち物を掲示することで、子どもたちが自ら判断できるよう工夫している。さらに、帰りの会などで、できている子どもを褒めたり、認めたりすることで、日常生活に必要な基本的生活習慣の習得を促している。

#### 

#### 評価項目3の講評

#### 日常の遊びの集大成となる行事を実施し、自ら進んで取り組めるよう工夫している

店屋さんごっこは、日常の遊びの集大成のイベントとして、子どもたちが自らお店の内容やルールを考えて取り組み実施した。また、子どもが好きな「よんもく」遊びを大会の形にして実施している。発表会では、学童クラブで子どもたちがそれまで頑張ってきたことや取り組んできたことを披露している。誕生日会では、誕生日を迎える子どもの良いところを見つけるゲームや、くじ引きの係を担当するなど、誕生日の子どもが特別感を持てる内容が盛り込まれている。このように、子どもたちが行事に興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している。

#### 子どもの意見を尊重し、子どもが自ら行事を企画・運営する取り組みを行っている

夏祭りや児童館まつりでは、子どもスタッフを募集し、子どもたちの意見を取り入れて企画・運営している。日々の育成の中で、15分程度の話し合いの場を設定している。子どもたちは行事当日だけでなく、準備や企画に携わることで深く関わり、行事を運営することができている。また、行事が終わった後、アンケートボックスに子どもたちの意見や希望を書いてもらい、職員はその内容を尊重して次の機会に生かすようにしている。行事等を実施することで、学童クラブの日常活動に変化と潤いがもたらされ、子どもたちの成長や発展が期待されている。

### 学童クラブは、保護者の協力と理解、時に参加を得ながら行事を実施する努力をしている

行事のお知らせや送迎・お弁当など保護者の協力が必要なことはおたよりで保護者に伝えている。お迎え時に保護者と直接顔を合わせる際は声掛けを行い、行事についての理解を得るよう努めている。 行事実施後には職員で振り返りを行い、保護者にも報告している。 保護者会では、言葉や映像を用いて行事の様子をわかりやすく伝えている。 発表会には保護者も参加してもらい、子どもの成長を共に喜べる場としている。 また、親子交流会は子どもが好きな遊びを親子と職員が楽しむ内容で行い、保護者会と同日開催することで参加しやすい工夫をしている。

#### 4 評価項目4

子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている

評点(0000)

	評価標準項目	
	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	
●あり ○なし		○非該当
	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	
●あり ○なし		○非該当
	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	
●あり ○なし		○非該当
⊚あり ○なし	4.【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当

#### 評価項目4の講評

### 予定を掲示して、子どもたちに生活時間の区切りをわかりやすく情報提供している

学童クラブでは、登室から降室までの間で静かに過ごす時間と遊ぶ時間をしっかり区別している。その日の予定はホワイトボード表示し、子どもたちが登室後確認できるようにしている。夏休み中は、朝から一日の生活になり、生活内容や時間が変わるため、特別な掲示をしている。自分が帰る時間についても掲示されているので、内容を確認することで、子どもはその日の過ごし方に見通しを持つことができるようになっている。その月の予定については、室内のカレンダーに記入してあり、子どもたちが少し先の予定を把握できるようにしている。

#### 静と動の場所を設け、整理整頓を視覚的にわかりやすくするなど、環境の工夫をしている

学童クラブでは、子どもたちが安心して活動できるよう、室内環境を工夫している。子どもたちは登室後、15分間は本読みや勉強で静かに過ごし、その後遊びに移っている。多目的室は畳が敷かれ静かに落ち着ける場所として使われ、室内遊びの場所は育成室と分けられている。事務室内には畳の部屋があり、クールダウン室としても利用されている。玩具収納棚は段ごとに色が付けられ、玩具にも色の目印がつけられているので、片付けの場所が一目でわかるようになっている。指定された色ごとに片付けることで、整理整頓が容易にできるように工夫されている。

### 子どもが自ら進んで通い続けられるよう、継続して遊びに取り組める工夫をしている

学童クラブでは、子どもたちが楽しい遊びを継続して取り組めることで自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している。お店屋さんごっこ遊びでは、作成した品物を持ち帰らずに保管できるようにしている。めんこ遊びは、折り紙に使用枚数の制限がある中、作っためんこで、子ども同士が毎日競い合いながら遊べるようにしている。また、ルービックキューブ、けん玉など、日々の積み重ねで技術が向上する玩具を常備して、上達を子ども自身が期待できるようにしている。学童クラブは、子どもたちが遊びを継続して取り組めるように工夫をしている。

#### 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている 評点(000) 評価 標準項目 1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援 助している ●あり ○なし ○非該当 2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援 助している ●あり ○なし ○非該当 3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子ども の援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている ●あり ○なし ○非該当

#### 評価項目5の講評

#### 学童クラブは小学校と情報交換をして、子どもたちが安心して過ごせる環境を整えている

学童クラブは、子どもたちが日々の生活を円滑に過ごせるように、月に一度連絡会を設けて、小学校副校長、放課後子供教室施設長、小学校学童クラブ施設長と情報交換を行っている。それぞれの予定や子どもたちの状況を把握し、内容については記録ノートに記録して職員と情報共有をしている。小学校とは良好なコミュニケーションが取れており、必要に応じて担任ともつながることができ、児童のために協力関係を築けている。他の小学校とも、個別に連絡を取る形で連携している。学童クラブは学校と連携し、子どもたちが安心して過ごせる環境を整えている。

### 学童クラブは学校と連携し、不登校児童の気持ちに寄り添った援助を行っている

月に一度の学校と情報交換等で児童の状況を確認している。また、個別に担任等と情報共有している。不登校児童については、他の児童が登室する時間に学童クラブで受け入れる形での対応等を取っており、学校や保護者と連携しながら子どもの気持ちに寄り添ったサポートを心がけている。また、職員は学習発表会等の見学をして学校での子どもたちの様子を直接確認している。学童クラブは、不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら、子どもの気持ちに配慮して援助を行っている。

### 学童クラブは関係機関と連携し、支援が必要な子どもたちのサポートに努めている

学童クラブでは、定例的に開催される学校との連絡会で学校と連携して、支援が必要な子どもの対応について共通認識を持って対応することができている。また、現在は利用していないが、必要に応じて市の巡回相談の制度を利用して子どもの支援についてアドバイスを得ることができる状態である。さらに、調布市子ども家庭支援センターとも情報を共有し、支援が必要な家庭をサポートしている。このようにして、学童クラブは関係機関と連携しながら、特に配慮が必要な子どもや養育環境で配慮が必要な子どもを支援している。

#### 6 評価項目6

子どもがおやつを楽しめるよう援助している

#### 評点(000)

評価	標準項目	
	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	
●あり ○なし		○非該当
	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	
●あり ○なし		○非該当
	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	
●あり ○なし		○非該当

### 評価項目6の講評

### 学童クラブは待ち時間を減らす工夫をして、楽しくおやつを摂れる環境を提供している

学童クラブでは、おやつの待ち時間を減らす努力をしている。おやつ時に職員がしている出席確認を短時間で行えるようにし、子どもたちにも短い時間で集合して出席確認ができるよう協力を促している。おやつの配膳方法も変更している。呼ばれた班の子どもが一人ずつおやつを選ぶやり方から、トレーにまとめて盛ったおやつを班ごとに配膳するやり方にして、食べるまでの時間を短縮できている。また、日ごろの班活動を通じて、同じ班の子どもたちが交流できる機会を提供し、班のメンバーの意思疎通を図ることで、楽しくおやつを摂れる環境を提供している。

### |子どもたちが生活を楽しめるよう、毎日15時から16時の間におやつを提供している

おやつの時間や内容、量は、夕食の時間帯等を考慮して工夫されている。具体的には、小学生のおやつのカロリーとして1日あたり200~300カロリーを目安に設定されており、夕食に影響しない量が提供されている。市のマニュアルを参考にして、市販のお菓子、惣菜、パン、果物を中心に、他のものと組み合わせて子どもたちが楽しめるようにしている。毎日の提供内容はおやつ献立表に記録されている。提供時間は毎日15時から16時の間で、この間に準備から片付けまでを行えるようにし、おやつの後の遊び時間が十分確保されるよう設定している。

### 食物アレルギーを考慮し、おやつの持ち込みや提供時に細心の注意を払っている

学童クラブでは、子どもの食物アレルギーに配慮したおやつを提供している。ナッツ類のおやつは提供していないが、その他のアレルギーについては保護者による持ち込みのおやつで対応している。子どもに提供する際は特定の席を指定し、個別の台ふきを使用している。おやつは専用の皿に乗せて提供し、提供時には必ずアレルギー物質のチェックを行い、賞味期限も確認している。持ち込みのおやつが少なくなったら保護者に連絡している。また、行事などで特別なおやつを一緒に提供する場合は、事前に保護者と相談のうえ、同じものを食べる機会も設けている。

#### 

#### 評価項目7の講評

#### 子どもたちが自分の健康を維持し、安全に過ごせるように様々な援助を行っている

学童クラブでは、年に一度、市の健康推進課が主催する子ども向けの健康講座を開催して、健康に関する情報を提供している。手洗いについては、登室時やおやつ前など定期的に声掛けを行っている。夏場には、外に出る際に帽子をかぶり、水筒を持参することなど、熱中症対策の重要性を伝え、これをポスターで掲示して子どもたちに視覚的にわかりやすく周知している。帰りの会では、行き帰りの道中における危険な場所や状況について話をしている。このように、学童クラブは、子どもたちが自分の健康を維持し、安全に過ごせるように様々な援助を行っている。

### 学童クラブは、事故防止に注力し、子どもが安全に関心を持てるよう促している

法人では、事故やケガの防止、感染症の予防対策を今年度の重点項目にしている。法人施設長会議では学童クラブ内でのヒヤリハットやアクシデントについて情報を共有し、再発防止に向けて取り組んでいる。それを受けて、職員全員で対応策を検討している。子どもたちが自らけがを防止できるような取り組みとして、安全な遊び方の指導をしている。たとえば、小学校の敷地で遊ぶ前にはホワイトボードを用いて危険な場所や立ち入り禁止区域を説明している。また、集団降室では職員がパトロールを行い、子どもたちが安全に関心を持つよう注意を促している。

#### 緊急時に備えた手順を整えて、子どもたちの安全をしっかりサポートしている

事務室内に病院の一覧表が掲示されており、医療的ケアが必要になった場合にスムーズに受診や問い合わせができるようにしている。病気やけがの対応についての手順は1階事務室内に掲示され、緊急時に適切な対応ができるよう備えている。事故対応マニュアルは誰でも見られる場所に保管しており、必要な時にすぐ確認できるようにしている。エピペンを持参する子どもについては、ランドセル内に所持していることを毎日確認しており、その上でおやつの提供をしている。もしエピペンを持参していない場合には、安全のためおやつの提供を中止している。

#### 8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

#### 評点(00000)

評価	標準項目	
2.1.	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
●あり ○なし		○非該当
	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
●あり ○なし		○非該当
	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
⊙あり ○なし		○非該当
	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
◉あり ○なし		○非該当
	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	
●あり ○なし		○非該当

#### 評価項目8の講評

### 学童クラブは、安全管理と学習支援を行い、保護者の都合にも柔軟に対応している

学童クラブでは、17時集団降室を実施し、17時以降はお迎えコースも設けて子どもたちの安全を確保している。育成時間は19時まで延長され、保護者の状況に応じて子どもたちを預かる体制を整えている。また、17時から17時30分の間には学習時間を設定して、子どもたちが勉強等を行えるようにし、保護者からの依頼に応じて学習を促す声掛けも行っている。年2回の面談は、保護者の希望に応じて、午前または夕方の都合の良い時間に実施している。保護者への連絡は、急ぎでない場合は保護者の帰宅後にするなど、状況に応じた対応を心がけている。

#### 親子が参加できる行事等を通じて、保護者と職員の信頼関係を築いている

学童クラブは、親子交流会、保護者会、親子遠足など、親子が参加できる行事を積極的に実施している。例えば、親子交流会ではドッジビーなどの子どもが楽しめる活動を行い、親子遠足では芋ほりなどの自然体験を提供している。これらの活動は、保護者間のコミュニケーションを促進し、お互いの育児経験を共有する場となっている。また、お迎え時に誕生会の写真を掲示したり、職員が保護者に声掛けを行うなど、日常的な交流や情報共有を大切にしている。職員は保護者が安心して子育てを行える環境づくりに努め、保護者との信頼関係を築いている。

### 保護者との共通認識を得る取り組みや子どもの安全を確保する対応を実施している

学童クラブでは、職員が保護者と面談を実施し、子どもの日常の様子や発達の状況について話し合う機会を設けている。普段の様子や気になることは電話等を通じて保護者に知らせることで、常に子どもの状況を共有している。保護者会での質問と回答をまとめて全保護者に配布することで、情報の透明性を保ち、共通認識を醸成している。また、子どもの出欠席の確認を厳密に行っている。利用登録と異なる場合は速やかに学校や保護者に確認し、迅速に対応を取る体制が整えられている。学童クラブは、子どもの安全を確保する取り組みを行っている。

評価項目9 地域との連携のも	とに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている <b>評点(〇〇)</b>	
評価	標準項目	
	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
◉あり ○なし		○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当

#### 評価項目9の講評

### 地域連携で多様な体験と交流を促進し、子どもの興味や生活の幅を広げている

学童クラブでは、図書館の図書の貸し出しやリサイクル本を活用し、子どもの興味や関心を広げる機会を提供している。館外活動では、親子芋ほり遠足で近隣市の観光農園に行き、親子で楽しい体験を共有する機会を設けている。また、市が主催するドッジビー大会やサッカー大会に参加して、他の学童クラブや児童館の子どもたちと交流している。放課後子供教室や小学校学童クラブとは交流会を複数回行っており、リモート交流会の取り組みでは、ビデオ通話と同時にけん玉等を披露し合うという交流を行っている。地域資源を活用して体験と交流を促している。

#### 地域連携を強化して子どもたちが地域の大人や子どもとの関わりを深める機会を確保

地域で活動する団体と連携して、昨年度は手話サークルを実施し、発表会に手話講師や住民を招待して交流を深めた。今年度は読み聞かせの会を月に一度行い、希望する子どもたちが積極的に交流している。職員は児童館運営会議や児童館まつり実行委員会に出席し、子どもたちはまつりのコーナーを担当して、地域の大人や子どもとの連携を強化している。さらに、近隣施設のイベントに参加したり、消防署や警察署の協力を得て、避難訓練、不審者対応訓練を実施するなど、地域との協力体制を強化して学童クラブが地域と関わりを深める機会を作っている。

事業者が特に	力を入れている取り組ん	<i>#</i> ①
評価項目	2-2-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している
タイトル①	中期経営計画の確実な	目標達成に向けて取り組んでいる
	ラブの運営を目指してい 化を図り、確実な実行に	法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クる。外部コンサルタントの助言を受け、各地域に応じた単年度計画の作成と具体策の明確向けて取り組んでいる。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と向けた課題抽出を実施している。このプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理さている。

事業者が特に	力を入れている取り組	<del>ル</del> ②
評価項目	6-3-3	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	職員間の連携を強化して	-体となった対応を実現するための情報共有ツール 朝礼簿の活用
内容②	記載され、後から出勤す 童、帰りの会で伝えるこ。 る。この朝礼簿は、項目	朝礼を通じて職員全員が情報を共有する取り組みを重視している。情報は専用の朝礼簿にる職員も確認できるようにしている。朝礼簿には、学校・学年別時間割や電話による欠席児と、学校の情報、けがの報告、子どもの様子、保護者からの連絡などの項目が含まれていごとに枠組みされており、視覚的にわかりやすく、確認漏れがないよう工夫されている。これ、有が円滑に行われ、職員間の連携を促進し、一体となった対応を実現している。

事業者が特に	力を入れている取り組み	<del>4</del> 3
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	子どもの状況をより深くエ	里解するために、複数回の個人面談を積極的に実施している
	積極的に実施し、今年度 にして行うことにしている もの成長を支えられるよ	に真摯に向き合っている。運営者は、子どもの状況をより深く理解するために個人面談を には2回の面談を行った。これまでは希望者のみを対象としていたが、今後は全家庭を対象 の。また、小学校との連携も進めており、学校生活と学童クラブでの活動が一体となって子ど う努めている。子どもの個別のニーズに応じた支援を進めながら、保護者との信頼関係の の、学童クラブが、子どもの成長を考え、環境を整える姿勢は、高く評価される。

No.	特に良い	いと思う点
	タイトル	法人内児童部門の組織力向上に向けて、地域性を踏まえた高い水準のサービス提供に向けて取り 組んでいる
1	内容	年2回行われる学童クラブ全体会を開催し、事業の目的の確認を通じて共通認識の醸成を図るとともに、職員間のコミュニケーションや支援力の強化、標準化に向けた取り組みを進めている。この取り組みを通じて、法人の運営する各学童クラブのサービス提供は、標準以上の水準を保ちながらも、施設長等を中心とした職員全体の努力により、地域性を大切にした運営が行われている。地域のニーズは今後も増加が予測されており、さらなるサービスの拡充と、地域ネットワークの一つの拠点として機能することを目指している。
	タイトル	学童クラブの月間目標を設定して室内とおたよりに明記し、毎月子どもたちと目標達成度を確認して 子どもの総合的な成長を支援している
2	内容	学童クラブの月間目標が明確に設定され、子どもたちや保護者に共有されている。月間目標が生活の目標と遊びの目標の両方を含んでいることで、子どもたちの全体的な成長をサポートしている。月初めと月終わりには目標達成度を子どもたちと確認し、フィードバックと意見交換の機会を設けている。子どもたちの様子に応じて目標を柔軟に見直している。保護者との連携を図りながら、学童クラブでの取り組みを家庭でも理解してもらうことで、子どもたちの成長を支援している。職員は日々の活動において目標に基づいた育成を行い、適切な支援を提供している。
	タイトル	子どもの人権に配慮した運営方針を掲げ、子どもの成長と幸福を中心に据えた学童クラブ運営は地域社会にとって重要な意味を持つものである
3	内容	子どもたちが「明日も行きたい」と思える学童クラブの運営に力を入れている。職員は子どもの話を丁寧に聴き、それぞれの意見や気持ちを尊重しながら、一人ひとりのニーズに柔軟に対応している。子どもたちとアイデアを出し合い、子ども自身が主体的に参加できる活動を計画し、実行に移している。子どもたちの満足度も高まり、安心して過ごせる居場所となっている。子どもの人権に配慮した運営方針を掲げ、尊厳を重んじた対応をしている。子どもの成長と幸福を中心に据えた学童クラブ運営は、地域社会にとって重要な意味を持つものである。
-		
No.	さらなる	改善が望まれる点
No.	<b>さらなる</b> タイトル	改善が望まれる点 将来的な職員の専門性やマネジメントカの向上を見越して、各業務における役割や担当の基準を設けるなどして育成を図ることに期待したい
No. 1		将来的な職員の専門性やマネジメントカの向上を見越して、各業務における役割や担当の基準を設
	タイトル内容	将来的な職員の専門性やマネジメント力の向上を見越して、各業務における役割や担当の基準を設けるなどして育成を図ることに期待したい 法人が運営する学童クラブは市内に7か所あり、地域性と子どもの状況に応じた柔軟な運営が行われている。 各学童クラブは主に法人本部の児童部門と施設長を中心に方針が決定され、配置される職員による業務手順等は標準化されている。一方で、業務の負担状況には各施設間で差異が見られるため、今後は通常業務における役割や担当に明確な基準を設けることで、より働きやすい職場となることが期待される。また、職員のマネ
	タイトル内容	将来的な職員の専門性やマネジメント力の向上を見越して、各業務における役割や担当の基準を設けるなどして育成を図ることに期待したい 法人が運営する学童クラブは市内に7か所あり、地域性と子どもの状況に応じた柔軟な運営が行われている。各学童クラブは主に法人本部の児童部門と施設長を中心に方針が決定され、配置される職員による業務手順等は標準化されている。一方で、業務の負担状況には各施設間で差異が見られるため、今後は通常業務における役割や担当に明確な基準を設けることで、より働きやすい職場となることが期待される。また、職員のマネジメントカにも注視し、その育成方法についても検討されることに期待したい。
1	タイトル 内容	将来的な職員の専門性やマネジメント力の向上を見越して、各業務における役割や担当の基準を設けるなどして育成を図ることに期待したい 法人が運営する学童クラブは市内に7か所あり、地域性と子どもの状況に応じた柔軟な運営が行われている。各学童クラブは主に法人本部の児童部門と施設長を中心に方針が決定され、配置される職員による業務手順等は標準化されている。一方で、業務の負担状況には各施設間で差異が見られるため、今後は通常業務における役割や担当に明確な基準を設けることで、より働きやすい職場となることが期待される。また、職員のマネジメント力にも注視し、その育成方法についても検討されることに期待したい。 学童クラブの表示を見やすくし、子どもたちへの情報伝達を円滑にすることで、子どもたちが安心して活動できる環境を整えることを期待する 学童クラブ内には、子どもたちが安全に、効率的に日々の活動を行うために子ども向けの表示がされている。ただ、子どもの目線より高い位置のもの、情報量が多すぎるもの、圧迫感を与えるもの、文字が小さくて見えずらいものなどがあり、改善が期待される。改善のポイントとしては、文字のサイズや情報の簡潔さ、位置、わかりやすいレイアウト、イラストや色の使用、子どもたち自身が参加できる掲示方法などが考えられる。これらの工夫によって、学童クラブ内の情報伝達を円滑にし、子どもたちが安心して活動に参加できる環境を整えることが期待される。 年間目標を大きく掲示することで、保護者が来所するたびに目標を意識し、子どもたちの成長を共に見守る意識を高めることが期待される
1	タイトル内容	将来的な職員の専門性やマネジメント力の向上を見越して、各業務における役割や担当の基準を設けるなどして育成を図ることに期待したい 法人が運営する学童クラブは市内に7か所あり、地域性と子どもの状況に応じた柔軟な運営が行われている。各学童クラブは主に法人本部の児童部門と施設長を中心に方針が決定され、配置される職員による業務手順等は標準化されている。一方で、業務の負担状況には各施設間で差異が見られるため、今後は通常業務における役割や担当に明確な基準を設けることで、より働きやすい職場となることが期待される。また、職員のマネジメント力にも注視し、その育成方法についても検討されることに期待したい。 学童クラブの表示を見やすくし、子どもたちへの情報伝達を円滑にすることで、子どもたちが安心して活動できる環境を整えることを期待する 学童クラブ内には、子どもたちが安全に、効率的に日々の活動を行うために子ども向けの表示がされている。ただ、子どもの目線より高い位置のもの、情報量が多すぎるもの、圧迫感を与えるもの、文字が小さくて見えずらいものなどがあり、改善が期待される。改善のポイントとしては、文字のサイズや情報の簡潔さ、位置、わかりやすいレイアウト、イラストや色の使用、子どもたち自身が参加できる掲示方法などが考えられる。これらの工夫によって、学童クラブ内の情報伝達を円滑にし、子どもたちが安心して活動に参加できる環境を整えることが期待される。